

■7月29日

日航、6月、旅客輸送実績、国際線、前年同月比0.5%減

日航は24日、6月のグループ旅客輸送実績を発表した。これによると、国際線旅客数は61万5,744人となり前年同月比0.5%減少(提供座席ASKは3.4%増)した。利用率はほぼ前年と変わらず77%だった。

成田ー北京線を一部減便した一方、787型機の運航再開に伴い、成田ーボストン線、サンディエゴ線のDAILY化、供給増となった。旅客数は微減だったが、RPKでは前年同月比2.8%増加で推移している。

また、方面別では、東南アジアが9.7%増と引き続き伸びており、太平洋も3.3%増と前年超え。利用率は太平洋が82.8%と最も高く、次いで欧州が81.2%、グアムが79.2%などとなった。

一方、国内線旅客数は月間247万8,817人、前年比4%増(提供座席ASKは6.2%増)。利用率は58.4%だった。3月31日から開設した伊丹空港発着3路線は、函館線の搭乗率は86.2%と好調、三沢線は59.6%、松山線は46.5%で推移した。

(日刊航空)7/26

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0726-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0726-03.pdf>)

(トラベルビジョン)7/25

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58393> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58393>)

(JALプレスリリース)7/24

<http://press.jal.co.jp/ja/release/201307/002577.html> (-> <http://press.jal.co.jp/ja/release/201307/002577.html>)

法務省、出入国審査、顔認証システム導入見送り、精度の問題

法務省は、空港の出入国審査を迅速化するため、機械で顔を識別して本人確認するシステムの導入を見送り事が27日分かった。実証実験で精度が低かったことが理由。今後は、自動化ゲートの活用に重点を置き、企業や団体に積極的な指紋登録を呼び掛ける。

法務省入国管理局によると、顔認証は、パスポートに内蔵されたチップの顔写真データと審査場のカメラで撮影した顔の画像をコンピューターで照合し、同一人物かどうかを確認する仕組み。英国やオーストラリアでは既に導入されている。法務省は2014年度からの実施を目指していた。

しかし、昨年8～9月に約2万9千人の協力を得て実証実験をした結果、約17%で同一人物と認識できなかった。

(日経)7/27

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG27020_X20C13A7CR8000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG27020_X20C13A7CR8000/)

日本の航空機メーカー、生産機体・部品、前年度比12%増

日本の航空機メーカーが昨年度に生産した機体や部品などの総額はアメリカ・ボーイング社向けの生産(特にボーイング787型)が増えたことなどから前の年度に比べて12%増え、従業員の数も大きく増えたことが分かった。

日本航空宇宙工業会のまとめによると、三菱重工業や川崎重工業など国内の航空機関連メーカーが昨年度に生産した機体や部品の総額が1兆1673億円と、前年度比12.5%増。

また生産にかかわる従業員も2万7200人と前の年度に比べて10%増となり、雇用面にも生産増加の影響が現れている。

(NHK)7/27

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130727/k10013338231000.html> (->

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130727/k10013338231000.html>)

HAC、6月、旅客収入、事業計画比0.6%増、3カ月連続、計画値上回る

(北海道新聞によると)

北海道エアシステム(HAC)は26日、道庁で開かれた経営検討委員会で、6月の旅客収入が事業計画比0.6%高い1億7100万円となり、4月から3カ月連続で計画値を上回ったと報告した。田村千裕社長は道側に「(経営は)7月に入っても順調。債務超過をできるだけ早く解消したい」と強調した。

計画値を上回ったのは、座席の販売状況を示す利用率が同0.8ポイント高い52.5%となったことなどが理由。実際に運航した便の割合を示す就航率は計画を5.3ポイント上回る100%。前年同月は機材故障のため4便あった欠航が、2010年10月以来約3年ぶりにゼロとなった。6月末の手元資金は3900万円となっている。

(北海道新聞)7/28

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/482107.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/482107.html>)

三沢空港、国内定期便、利用率好調

日航グループのジェイエアが3月に再開させた大阪線の搭乗率は約6割、北海道エアシステム(HAC)が7月に開設した札幌丘珠線は約7割と三沢空港を発着する民間路線の利用が堅調だ。

加えてHACが8月1日から、丘珠線の機材を活用した函館線を就航する予定で、三沢空港は東京便を合わせて1日6往復態勢となり、利便性はさらに高まる。

(デイリー東北)7/28

<http://cgi.daily-tohoku.co.jp/cgi-bin/news/2013/07/28/new1307281402.htm> (-> <http://cgi.daily-tohoku.co.jp/cgi-bin/news/2013/07/28/new1307281402.htm>)

マレーシア航空、成田—コタキナバル線、運航再開

マレーシア航空は10月28日から、成田—コタキナバル線を再開する。一方、成田線の復活に伴い、現在週2便で運航中の関空—コタキナバル線は、10月24日を最後に、運休を決定した。同路線は、2012年2月に羽田線を運休後、東京—コタキナバル間は運航していなかった。ロードファクターの目標は75%。

マレーシア航空によると、需要動向や、サバ州政府観光局やマレーシア政府観光局、日本旅行業協会をはじめとした関係者の要望もあり、復活を決定。また、羽田線ではなく成田線を復活させた理由としては、羽田—マレーシア間の発着枠がすでに埋まっているためとした。トラベルビジョンが報じた。

使用機材は、ボーイング737-800型(ビジネスクラス16席、エコノミークラス144席の合計160席)で木、土曜日の週3便で運航する。

(トラベルビジョン)7/28

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58400> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58400>)

タイ航空、札幌線、Daily運航前倒し、10月1日から

タイ国際航空は24日、先に発表した新千歳—バンコクのデイリー運航化を約1カ月前倒して実施すると発表した。10月1日のバンコク発便、翌2日の札幌発便から毎日運航する。

同路線は、昨年10月、週3便で運航を開始し、年末には4便に増便した。夏期スケジュールも一部期間を除き週4便運航しているが、先に10月27日から来年3月29日までの冬期スケジュールでDaily運航に増便すると発表していた。

(NNA ASIA)7/29

<http://news.nna.jp/free/news/20130729thb010A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130729thb010A.html>)

春秋航空日本(LCC)、初号機が成田に到着、耐空証明書取得

春秋航空日本が導入するB737-800型機の初号機が日本に到着、7月18日付で国交省から耐空証明を取得したことが明らかになった。現在は成田空港に駐機している。日刊航空が報じた。

春秋航空・日本は、親会社である中国の春秋航空が使用するA320型機とは異なる機種を選定した。耐空証明(日本国籍の航空機として安全性や技術上の基準に適合していることを証明するもの)を受け、同社では、就航を目指して準備を本格化させているようだ。ただ、同社は現時点で、航空運送事業許可の申請時期の見通しなどを明らかにしていない。

(日刊航空)7/29

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0729-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0729-02.pdf>)

中国航空当局、自国航空会社、韓国路線チャーター便、運航回数・期間制限を通達

(yonhapnewsによると)

中国の航空当局が今月中旬、自国の航空会社に対し、韓国路線のチャーター機の運航回数や期間を制限するとの通達を出したことが28日までに分かった。中国市場で急成長した韓国の航空会社をけん制し、中国航空会社の定期路線を保護するための措置とみられる。

チャーター機は旅行のピーク期などに投入する非定期航空便。両国の観光交流が拡大し、韓国の旅行会社と航空会社はチャーター機運航で多くの中国人を誘致している。

両国の航空当局が2006年、チャーター機運航に関する了解覚書(MOU)を締結してから中国がチャーター機の運航を制限するのは異例だ。

中国航空当局は定期路線でのチャーター機運航を認めず、同じ航空路でのチャーター機運航を年4カ月以内に制限する方針を通報したとされる。方針は大韓航空やアジアナ航空、格安航空会社(LCC)など韓国航空会社にも適用されると予想され、韓国観光業界に悪影響を与えそうだ。

韓国国土交通部は中国の航空当局に事実関係の確認を要請した。回答を受け、今後の対応を検討する。

(yonhapnews)7/28

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/economy/2013/07/28/0500000000AJP20130728000500882.HTML> (-> <http://japanese.yonhapnews.co.kr/economy/2013/07/28/0500000000AJP20130728000500882.HTML>)

台湾、日本行き航空券、値上がり傾向、人気路線は昨年同期比25%高

(NNA ASIAによると)

日台間の航空自由化協定締結による増便や昨年から続く円安を追い風に、日本を訪れる台湾人旅行者が急増したことで、日本行きの航空券が値上がりしている。8~10月分の東京や大阪、北海道など特に人気の高い路線では、最大で前年同期比25%高くなる見通しだ。26日付経済日報が伝えた。

中華民国旅行業品質保障協会(品保会)東北アジア線委員の劉見明氏によると、今年第3四半期の日本行き航空券は、既に前年同期に比べ約1,000~2,000台湾元(約3,330~6,669円)値上がりした。航空会社は通常3カ月ごとに航空券の金額を調整するが、一部の航空会社が近く、8月中旬~10月末の未発券分をさらに約500~1,000台湾元引き上げるのは確実だという。

(NNA ASIA)7/29

<http://news.nna.jp/free/news/20130729twd014A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130729twd014A.html>)